

# 197

こんにちは。塾長の大井です。

5期生受験戦記第2回です。

5期生を卒業式で送り出し、彼らは何枚も何枚も書きつづった受験体験記を読み返すと、冒頭でみんな体験授業のおもしろさや衝撃について記しています。

「・・・でも、まだ中学受験への気持ちは軽いもので、前の塾に通っていた時には、通うのが嫌になった程でした。四年生になってお父さんがすすめてくれた塾が、このTOPでした。体験授業を受けた時には、感動してしまいました。まず目につくのは迫力で、そして原理を教えてくれるやり方にも驚きました。」（Sくん）

「・・・4年生のはじめの時は、勉強ということのおもしろさとかがわからなかったと思う。しかし、大井先生のわかりやすい授業、田宮先生のわかりやすい授業をうけていくうちに、だんだん勉強することはたのしいことなんだということがわかってきました。」（TYくん）

言うまでもなく、塾の価値は授業の質や深度でその大半が決まるといえるでしょう。

TOP では、受かるためだけの目先の点だけを取りに行くのではなく、長く学びや思考の礎となる種を蒔くことこそが、子どもたちの未来に資する授業だと考えています。

それは何も体験授業に限ったことではありません。同じテキストを扱ったとしても同じ授業は一つとしてないし、授業の全てはその学年、そのクラスの子どもたちの答案から始まります。

彼らのアタマとココロを動かし、よき刺激を与え続けること。

常にこれが TOP の授業のおもしろさを生み続ける熱源です。

そんな TOP に大きな希望を抱いてスタートした個性派集団のクラスに、一石を投じる出逢いが訪れました。

4年生の10月のことでした。かねてから TOP への入会を熱望していた M さんが体験授業にやって来ました。M さんは物おじしない活発な性格で、初回授業とは思えないほどに生き生きと授業に参加していました。

彼女は今まで何をやっても人並み以上にこなせたらしく、その日もそれ

なりに自信を持って臨んでいました。それでも、周りは自分ができないことを易々とやることに少なからずショックを受けたようでした。周りはTOPのやり方に慣れていますが、Mさんは初回なので差があるのは当然です。しかし、Mさんにはそれがショックで、また大きな刺激にもなったようでした。

私もTOPでできるようになりたい。

強くそう感じたらしく、その日のうちに入会の意志を固めていました。

(第3回につづく)

2019年3月31日

大井雄之